

Minami Kyushu University Syllabus								
シラバス年度	2021	開講キャンパス		都城キャンパス	開設学科		人間発達学部	
科目名称 [英語名称]	メディア論 [Theory of Media]				実務経験 教員担当	○	アクティブ ラーニング	○
科目コード	750017	授業形態	講義	単位数	2	配当学年	1-4年次	
教員氏名	外前田 孝				学位授与の方針 との関連	DP1.(2) DP3.(1)		
授業概要	<p>宮崎県の地方紙、宮崎日日新聞社に今年3月まで35年間勤務し、丸30年を記者として過ごした。見出し付けやレイアウトをする整理部記者を皮切りに、報道部県警、市政、県政(キャップ)を担当したほか、東諸支局長、西都支局長、日南支社長と出先を経験。文化部デスク、運動部長、地域情報部長も務めた。私の場合、記者として日々の事件事故やイベント・行事などのストレートニュースでは伝えきれないものを、もっと現象を掘り下げた連載記事(ルポルタージュ)にして紙面に発表してきた。</p> <p>本講義は「新聞を丸ごと体験しよう」をコンセプトにする。新聞の役割、記事の内容、読み方、取材の仕方、記事の書き方を一通り学んだ上で、実際に取材から記事の執筆までを体験してもらう。これらを通して、フェイクニュースが飛び交い、デジタル化が進む多様なソーシャルメディア時代における新聞の役割と存在意義について認識を深めてもらう。</p>							
関連する科目	時事問題研究、社会学、日本国憲法、経済学、倫理学、環境問題入門							
授業の進め方と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、レジュメを作成し、必要な資料もコピーする。 ・パワーポイントは用いず、学生との対話を重視する。 ・フィールドワーク(取材体験)も取り入れる。 							
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 自己紹介+概論「新聞とは何か」。その歴史的沿革も。 ② 「新聞の読み方」。地方紙と全国紙の違いも。【ゲスト・朝日新聞都城通信局の神谷記者】 ③ 「「ぼくが敬愛するジャーナリストたち」上(深代淳郎、斎藤茂男、辺見庸、斎藤貴男) ④ 「「ぼくが敬愛するジャーナリストたち」下(佐藤弘)【ゲスト・佐藤弘】 ⑤ 「「ぼくが書いてきた連載記事」上 ⑥ 「「ぼくが書いてきた連載記事」下 ⑦ 「社説を読もう」 ⑧ 「コラムを読もう」…深代淳郎の「天声人語」など。 ⑨ 「写真の撮り方」【ゲスト・宮日の松元信二郎記者か中島写真部長】 ⑩ 「取材の仕方・記事の書き方(記事の構造)」 ⑪ 「取材体験」上 ⑫ 「取材体験」下 ⑬ 「記事を書く」上 ⑭ 「記事を書く」下…発表を兼ねて。 ⑮ まとめ…意見交換を中心に。 <p>※ゲストの都合で順序が入れ替わる場合もある。</p>							
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞を日々読む習慣を身につけて慣れ親しんでもらう。それによって自分たちの暮らす社会でいま、何が起きているか、政治や経済はどういう方向に進んでいるのか、を知り、ニュースを見る目と判断力を養う。 ・新聞メディアが国民の「知る権利」に応えることで民主主義社会の土台を形成していることにも認識を深めてもらう。 							
授業時間外の学修	とにかく日々の新聞を読んで、新聞とはどんな構成・構造になっているか、どんな記事が掲載されているか、ニュースの価値はどんなふうになっているのかを事前に把握してもらう。また、メディアに関する記事や書籍も積極的に読むことを心掛け、新聞とSNSとの情報の違いも認識する。							
課題に対するフィードバック	授業中に作成した記事は打ち返し、どこが不足しているか、どんな構成にしたらいいかなど具体的にアドバイスする。試験のレポートには感想を添えて返却する。	評価方法	出席日数、授業中に作成した記事、試験のレポート					
テキスト	日々の新聞記事(できれば自分の読みたい新聞を少なくとも半年購読する)							
参考書	『事実が「私」を鍛える』(斎藤茂男、太田次郎社)、『記者志願』(斎藤茂男、築地書館)、『メディアの罨』(青木理ほか、産学社)、『深代淳郎の天声人語』(朝日新聞社)、『天人～深代淳郎と新聞の時代』(後藤正治、講談社)、『食卓の向こう側シリーズ』(佐藤弘ほか、西日本新聞ブックレット)、『もの食う人びと』(辺見庸、角川文庫)、『カルト資本主義』(斎藤貴男、ちくま文庫)							
備考								